

# 市議会だより

## 平成21年第4回三豊市議会臨時会

平成21年第4回三豊市議会臨時会が、7月30日に開催されました。  
第4回臨時会においては、工事請負契約の締結2件、一般会計及び水道事業会計  
補正予算を、原案どおり可決しました。



臨時会には4議案が提案され原案どおり可決しました。

議案第87号「工事請負契約の締結」については、市内全域を対象とした、デジタル防災行政無線施設（固定系）整備工事を、7億7,910万円（※富士通ゼネラル（高松市）と契約するものです）。

議案第88号「工事請負契約の締結」については、詫間中学校屋内運動場建築及び太陽光発電工事を、4億9,035万円で小竹興業（高松市）と契約するものです。

議案第89号「一般会計補正予算」については、国の第一次補正予算を受けて、18億3,156万8千円を増額補正するものです。歳出の主なものは、地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業として、市道維持管理事業、幼稚園・小学校施設耐震化推進事業、農道維持管理事業等で16億8千万円余、湯水対策事業で1億3千万円余です。

議案第90号「水道事業会計補正予算」については、湯水対策配水管布設工事等、湯水対策として1億9,340万円を増額補正するものです。

### 平成21年第4回三豊市議会臨時会 審議結果

議案第87号	工事請負契約の締結 (デジタル防災行政無線施設(固定系)整備工事)	原案可決(全会一致)
議案第88号	工事請負契約の締結 (詫間中学校屋内運動場建築及び太陽光発電工事)	原案可決(全会一致)
議案第89号	一般会計補正予算(第2号)	原案可決(全会一致)
議案第90号	水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決(全会一致)

20日	19日	18日	17日	13日	6日	8月	30日	29日	27日	24日	23日	22日	
三観広域行政協議会視察研修		建設経済常任委員会	議会広報委員会	中部広域競艇事業組合議会	まちづくり調査特別委員会	市町総合事務組合議会	議会運営委員会	臨時会	香川県市議会議長会議員研修	全員協議会	教育民生常任委員会	建設経済常任委員会	総務常任委員会

### 教育民生常任委員会研修

6月30日、7月2日  
岐阜県可児市・中津川市・各務原市

30日 可児市学校給食センター 学校給食センターの老朽化に加え、文科省から「学校給食衛生管理の基準」が示され、抜本的な対応が必要となり、PFI法の手法により学校給食センターの建て替えを行った。平成19年の二学期から新センターの運営を開始し、市内すべての小・中学校へ約9,300食を提供している。施設の維持管理や給食の配送業務等は民間委託しているが、給食の献立や食材の購入・調理業務は市の責任において実施している。

安心して安全な給食の提供が一番であり、本市においても給食施設の老朽化に伴い、今後の対応が急がれるが、大変参考となった。

1日 総合病院中津川市民病院 中津川市には、中津川市民病院と坂下病棟の市立病院がある。病院事業は独立採算が原則だが、質の高い医療を提供するための投資や地域

医療を守るために不採算医療を行う必要があり、一般会計からの繰り出しを受けているが、平成19年度末には資金不足が生じ、両病院で7億円余の一時借入を余儀なくされ、経営の安定が急がれている。

2日 各務原市「瞑想の森市営斎場」老朽化した火葬場を改築し、「静けさと自然に帰る」をコンセプトに、市営墓地と火葬場が一体となった公園墓地として、平成18年に整備された。建物は白を基調に曲線を生かした斬新なデザインで、待合室にはピアノを置きコンサートも時々開催している。火葬場のイメージを変え、市民にも好評とのことである。

本市では、火葬場の老朽化



公園墓地として整備された 瞑想の森

### 建設経済常任委員会研修

7月8日、10日  
富山県南砺市・福井県大野市  
兵庫県小野市・  
加古川食肉地方卸売市場

が進み、火葬場建設が課題となっており、大変意義のある研修となった。

8日 南砺市 市内には、世界遺産に登録された合掌造り集落をはじめ、伝統的・歴史的な観光資源が多数存在し、市ではこれらを活用した魅力的な各種イベントを実施することにより、多くの入込客数を確保し、平成20年の経済効果は約15億円とのことである。このように観光事業は既に確立されているが、更なる進展のため、合掌造り集落を観光の柱と位置付け、リピーター増による口コミ宣伝、情報サ

9日 大野市 環境に調和した農業の推進により付加価値を高め、農産物のブランド化を目指すとともに、魅力ある「食」を提供する農業の発展を図るため、五年間の基本的施策の方向性を示す「食・農業・農村ビジョン」を策定した。その進捗状況の評価と検討を進めるため、農業者・消費者・農協・行政等で構成された推進委員会を設立し、「越前おおの型農業の確立」を目標としている。個々に詳細な施策を策定し数値目標を決定しているが、情勢の変化に迅速に対応するため、各年度において現状と計画の整合性を検証しながら、進行管理と推進に努めている。本市における将来を見据えた農業振興を図るうえで参考になった。

イト及びマスメディアの活用旅行エージェントとの連携による観光モデルコースの企画販売等の施策を展開するとともに、広域連携にも力を入れている。本市における観光資源の発掘と、今後を見据えた広域連携を考えていくうえで参考となる研修であった。

ばん」や「播州鎌」に代表される地場産業は、かつては産業の中核として伝統的に継承されてきたが、近年は市場の縮小や将来的な不透明感により、極めて厳しい状況である。市では、「伝統技術継承とそるばん加工産地としての再生」を掲げ、商工会議所と連携し、地場産業が勝ち残っていくために、「意識改革と体制強化」等をキーワードとして、育成に取り組んでいる。小野市には、これら地場産業の技術を延長した部分で大企業も数多く立地し、伝統産業と新しい産業の調和を図りながら活力あるまちづくりが進められており、大変参考となった。

この他10日に、加古川食肉地方卸売市場で、三豊市・観音市牛枝肉共励会を視察した。



大野市役所にて